

能楽研究所彙報(二〇一九年四月～二〇二〇年三月)

著者	野上記念法政大学 能楽研究所
出版者	法政大学能楽研究所
雑誌名	能楽研究
巻	45
ページ	239-258
発行年	2021-03-25
URL	http://hdl.handle.net/10114/00024307

能 楽 研 究 所 彙 報(二〇一九年四月～二〇二〇年三月)

〔紀要〕『能楽研究』第四十四号の発行

二〇二〇年三月二十五日付で、研究所紀要『能楽研究』第四十四号を発行した。A5版300頁。内容は次の通り。

車屋謠本刊本考―鳥養道断が作った謠本―

伊海 孝充

新出鷺流狂言『宝暦名女川本』の離れについて

永井 猛

鷺流狂言『宝暦名女川本』『盗類雑』『遠雑類』翻刻

永井猛、稲田秀雄、伊海孝充

狂言(隠笠)と(宝の槌)の趣向

中司由起子

令和の《大典》

西野 春雄

研究展望 二〇一六年(平成28年)

表 きよし

深澤 希望

高橋 悠介

小室有利子

伊海 孝充

山中 玲子

中司由起子

豊島 正之

能界展望 二〇一七年(平成29年)

竹内 晶子
横山 太郎

能楽研究所彙報 二〇一八年度(平成30年度)

能における「執心」の可視化―謠曲テキストの分析を通して―
付・ドイツ語訳(殺生石) アイケ・グロスマン

〔第四十一回観世寿夫記念法政大学能楽賞〕

第四十一回観世寿夫記念法政大学能楽賞の受賞者に、

二〇一九年十一月二十八日(木)に開かれた選考委員会委員は、西野春雄・観世鍔之丞・竹本幹夫・児玉竜一・増田正人〔法政大学常務理事〕・尾川浩一〔法政大学常務理事〕・山中玲子・宮本圭造の推薦に基づいて山本則俊氏と小林健二氏の二名が選ばれ、十二月七日付で田中優子総長名義の通知を各方面に発送した。贈呈理由と受賞者の経歴は次の通りである。

〔受賞者〕 山本 則俊(やまもと のりとし)氏

〔贈呈理由〕 山本家の狂言の中心的な役者として、兄の東次郎・則直両氏とは異なる独特の魅力を發揮している。アド役

としての確実さ、シテを演ずるときの飄々とした滑稽味、狂言歌謡や間語りのうまさなど、余人に代えがたい。次世代への芸の継承にも大きく貢献している。

〔主な経歴〕 大藏流狂言方。日本能楽会会員。一九四二（昭和十七）年、三世山本東次郎の三男として東京都に生まれる。本名石井倬巳（たくみ）。父に師事。長兄は東次郎、次兄は故・則直。四七年（伊呂波）で初舞台。六三年（三番三）を抜く。六四年、《茶壺》の演技により三兄弟揃って芸術祭奨励賞受賞。六五年、國學院大學政経学部卒業。七六年に三十代で《釣狐》を抜く。九一年、前年の《素袍落》《樋の酒》の演技などで芸術選奨文部大臣新人賞受賞。翌九二年に《花子》を抜く。

兄二人の影に隠れて目立たなくなりがちだが、強い自己主張のない飄々とした芸風が独特の魅力との評価が高い。東次郎氏のアド役としても欠くべからざる存在である。

八四年より国立能楽堂養成課講師として後継者の育成に尽力。子息の則重・則秀両氏も着実に力を付け、山本家の狂言を支えている。伝統を守る一方、九六年鳥獣戯画十二支合戦、九九年（ジゼル）、二〇〇一年（安倍晴明）等の新作にも積極的に参加。アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・イスラエル・ハンガリー等二十ヶ国以上の公演に参加。趣味は野球。熱烈な阪神ファン。

〔受賞者〕 小林 健二（こばやし けんじ）氏

〔贈呈理由〕 氏の近著『描かれた能楽 芸能と絵画が織りな

す文化史』は、能楽と絵画資料の関わりという氏が独自に開拓してきた領域の、優れた学術的結実である。説話や語り物などへの造詣も深く、視野の広い能楽研究は、復曲上演や普及活動等にも十分活かされている。

〔主な経歴〕 国文学研究資料館名誉教授。一九五三（昭和二十八）年東京都に生まれる。七八年國學院大學文学部卒業、同大学院文学研究科入学。八〇年同大学院修士課程修了。二〇〇一年大阪大学より博士（文学）の学位を授与。一九八〇年国文学研究資料館文献資料部助手。八四年大谷女子大学専任講師、八九年同助教授、九六年同教授を経て、二〇〇八年国文学研究資料館教授、一九年同退職。

主な著書に『沼名前神社神能の研究』（和泉書院、一九九五年）、『中世劇文学の研究―能と幸若舞曲』（三弥井書店、二〇〇〇年）、『描かれた能楽 芸能と絵画が織りなす文化史』（吉川弘文館、二〇一九年）がある。研究分野は室町時代の文芸、とくに能・狂言や幸若舞曲などの芸能を専門とする。文献学的な資料考証を主な研究方法とするが、早くから絵画資料に注目し、図像を用いた考証を研究手法の一つとする。また、国立能楽堂の特別展示「宇和島伊達家の能楽」（二〇一六年度）、企画展示「能絵の世界」（二〇一六年度）、特別展「能狂言絵コレクション」（二〇一九年度）を監修し、「名取ノ老女」などの復曲作業にも参加した。

なお贈呈式は、次に記す催花賞とあわせて、二〇二〇年一

月二十日(月)午後五時三十分より、ハイアットリージェンシー東京で開かれた。受賞者をはじめ、選考委員、法政大学関係者、能楽関係者ら八十名の出席のもとに、田中優子総長から賞状と賞金(各三十万円)が贈られ、レセプションに移って歓談の後、午後八時に散会した。

〔第二十九回催花賞〕

〔受賞者〕 宇高 通成(うだか みちしげ)氏

〔贈呈理由〕 氏は金剛流シテ方として舞台をつとめる傍ら、三十年以上にわたって「国際能楽研究会」を主宰し、能に興味を持つ海外の人々に、単発のワークショップとは異なる本格的で継続的な稽古をおこなってきた。「国際化」に光が当たる遙か前から地道に活動をし続け、研究と実践の両面で活躍する人材を育てるなど、能楽の世界的普及に氏が果たした役割は多大である。

〔主な経歴〕 金剛流シテ方。日本能楽会会員。一九四七(昭和二十二)年生まれ。六〇年、二世金剛巖に内弟子入門。七〇年独立。これまでに(石橋・乱・望月・道成寺・翁・卒都婆小町・木賊・鸚鵡小町等を披く。

八五年国際能楽研究会(十三ヶ国)を創立。能楽協会員の小鴨梨辺華(りべか)・リベッカ・ティールを含む外国籍の能楽師範三名を育成。また、能楽の実技と理論を身につけて国内外で活躍するデイエゴ・ペレッキア(京都産業大学准教授のよう)な人材も輩出している。八六年の「日米文化交流の会」

(ヒューストン、アトランタ)をはじめ、海外での演能活動も多い。二〇〇八年には、文化庁採択の国際交流事業として、新作能(原子雲)他を、パリ日本文化会館、ベルリン放送会館ドレスデン国立劇場にて上演。同時に五十点の自作能面を展示した。

一方、郷里松山では九一年に初世宇高六兵衛追善能を開催、九七年には明治まで続いた松山稽古舞台を再興、〇八年には松山東雲神社神能を十五年ぶりに復興(以後毎年開催)するなど、地方の能楽の振興にも貢献している。二〇〇三・一二年には自らの会「三輪清浄(さんりんしょうじょう)」にて大曲十番に挑戦。これらの演能のほとんどは自作の能面を使用している。「宇高通成面乃会」を主宰。後継者は子息の竜成氏と徳成氏がいる。

〔研究・調査活動〕

共同利用・共同研究拠点としての活動

二〇一三年度より文部科学省の認定を受けて開始した「能楽の国際・学際的研究拠点」も六年間の第一期を終えて、無事に第二期も認定を得た。

従来のテーマ設定型共同研究4種(①能楽研究所所蔵資料に基づく文献学的・国語学的研究、②江戸時代の能楽についての学際的研究、③能楽の演出・技法に関する研究、④国際的視野に基づく新たな方法論構築のための能楽研究)を、あらたに、「文献資料に基づく能楽の総合的・学際的研究」、

「新たな視点による国際・学際的能楽研究」という二つの柱にまとめたうえで、それぞれの柱のもと、能楽研究所主体での共同研究を進めることとした。

また、公募型共同研究12件①室町中後期能楽伝書の資料集作成と室町文化の継承史・社会史に関する学際的研究、②能作品の仏教関係語句データベース作成と能の宗教的背景に関する研究、③新出・鷲流狂言『宝暦名女川本』の離れ(笹野本)についての基礎研究、④能の映像にそえる記譜の研究、⑤謡曲における和歌・連歌表現の用例データベース構築、⑥能楽におけるコミュニケーションな実践の構図の解明、⑦能楽伝書の国語学的研究、⑧イキのコミュニケーション・能の所作を先端ロボットに適応するための基礎研究、⑨ワキ型付「能之秘書」の解説と注釈を通じた固定期以前の能演出の研究、⑩間狂言資料集成の作成とアイ語りを視点とする夢幻能の再検討、⑪近世邦楽詞章における謡曲撰取の研究と用例データベースの作成、⑫能楽研究所蔵及び国立能楽堂蔵一噌流伝書の調査研究―演奏技法及び江戸期地方伝承の解明にむけて―が順調に活動を進めた。

なお、以下の公開シンポジウムとセミナーを企画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった。

●研究集会「近世初期出版文化の中の謡本―光悦謡本を例に

3月7日(土)外濠校舎S 306

「古活字版の底本と本文―嵯峨本とその周辺を事例に―」

小秋元段(法政大学)

「素人」が作った謡本―光悦謡本の分類・底本・節付試論―

伊海孝充(法政大学)

コメント

竹本幹夫(早稲田大学名誉教授)

主催・科研費基盤研究C「江戸時代初期における謡本出版過程とその文化的背景に関する研究」成果報告

●セミナー「千変万化 狂言《附子》―過去・現在・未来―」

3月14日(土)ボアソナードタワー26階スカイホール

「狂言《附子》予習・復習」 伊海孝充(法政大学)

「『附子』はどこから来たのか？」 鈴木 靖(法政大学)

「実演」手話狂言《附子》 日本ろう者劇団

【座談】三宅近成(和泉流狂言方)・江副悟史(日本ろう者劇団、劇団代表)・鈴木靖・伊海孝充 ※手話通訳付(法政大学手話サークルわたがし)

本年度の公募型共同研究の主な活動を以下に掲げる。

●各共同研究の研究會

*「室町中後期能楽伝書の資料集作成と室町文化の継承史・社会史に関する学際的研究」(代表・重田みち 京都芸術大学)。能楽研究所にて11月6・7日に研究会開催。

*「能作品の仏教関係語句データベース作成と能の宗教的

背景に関する研究」(代表・高橋悠介 慶應義塾大学)以下の日程で公開研究会開催。

7月12日(金)ボアソナードタワー19階D会議室

「謡曲《絵馬》管見」斎宮・アマテラス・東福寺」

芳澤元(明星大学)

12月6日(金)ボアソナードタワー25階B会議室

「狂言作品における宗教モチーフ概観 寺社の描写を中心に」
中野顕正(東京大学大学院生)

中近世宗教史研究会との共催。

その他、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫にて以下の日程で研究会を開催。5月29日、7月5日、8月23日、9月18日、10月25日、11月22日、2月7日、3月6日。

*「新出・鷺流狂言『宝暦名女川本』の離れ(笹野本)についての基礎研究」(代表・永井猛 米子工業高等専門学校)調査撮影及び研究会を能楽研究所にて以下の日程で開催。6月12日・10月18日・11月12日・12月25日・1月14日。

*「能の映像にそえる記譜の研究」(代表・藤田隆則 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター)3月26日(木)金剛能楽堂「ウェブサイト」「インタリメディアとしての能」完成記念シンポジウム・デジタルヒューマニティズの未来へ」。新型コロナウイルスの感染拡大により中止。

*「謡曲における和歌・連歌表現の用例データベース構築」(代表・川上一 慶應義塾大学斯道文庫研究所)慶應義塾大学及びオンラインにて以下の日程で研究会を開催。7月18日、10月28日、12月22日、1月19日、2月5日、2月17日、3月20日、3月23日。

*「イキのコミュニケーション…能の所作を先端ロボットに適応するための基礎研究」(代表・中川志信 大阪芸術大学 能楽研究所会議室にて以下の日程で会議開催。6月24・26・28日、7月13日。

*「ワキ型付「能之秘書」の解説と注釈を通じた固定期以前の能演出の研究」(代表・中司由起子 法政大学)能楽研究所会議室にて以下の日程で研究会開催。7月22日、8月21日、9月2日、10月21日、11月25日、12月16日、1月28日、2月25日、3月24日。

*「問狂言資料集の作成とアイ語りを視点とする夢幻能の再検討」(代表・西村聡 金沢大学)能楽研究所会議室にて9月13日、12月26日・3月5日に研究会開催。

*「近世邦楽詞章における謡曲撰取の研究と用例データベースの作成」(代表・日置貴之 明治大学 能楽研究所会議室等にて7月23日、11月22日、2月4日、2月13日に研

研究会開催。

原八千代

*「能楽研究所蔵及び国立能楽堂蔵一噌流伝書の調査研究——演奏技法及び江戸期地方伝承の解明にむけて」(代表・森田都紀 京都芸術大学) 能楽研究所会議室及び国立能楽堂にて以下の日程で資料調査および研究会開催。4月11・19・25・26日、7月12日、8月29日、9月6日、11月19日、12月13日、1月24日、2月19日。

各研究会の進捗状況等の詳細は「能楽の国際・学際的研究拠点」のウェブサイトを参照されたい。

●他組織との連携による研究集会

*能楽学会共催研究集会

4月25日(木)ボアソナードタワー25階B会議室

「橋の会」前夜―能と現代芸術・現代思想―

第一部 研究発表

「現代思想における能―一九七〇～八〇年代を中心に―」

横山太郎(立教大学)

第二部 トークセッション

語り手 松岡心平(東京大学)、聞き手 横山太郎

6月21日(金)ボアソナードタワー19階D会議室

研究発表「江戸の小謡本出版―鱗形屋と葛屋の場合―」

8月2日(金)ボアソナードタワー19階D会議室
講演「日本の舞台芸術における身体について」

ボナヴェントウラ・ルベルティ

(ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学)

3月2日(月)ボアソナードタワー26階A会議室
発表題目・キリシタンは幸若舞をいかに説んだか

〈幸若「富樫」と能「安宅」の相異と語り復元〉

発表者・第一部 研究発表 小林千草

第二部 幸若「富樫」語り復元

企画・解説 小林千草

語り ワキ方福王流 福王和幸

新型コロナウイルスの感染拡大により中止。

10月19日(土)ボアソナードタワー26階スカイホール

能楽学会第十八回大会

研究発表「(風山)間狂言考―能を補完する間狂言―」

富山隆広(法政大学大学院生)

トークセッション「お稽古の現在」

佐久間二郎(シテ方観世流能楽師)・和田優子・朝原基弘

〔司会〕横山太郎(立教大学)

大会企画「家元のアーカイブ」

【趣旨説明】 宮本圭造（法政大学）

【報告】 1 「観世文庫の文献資料の形成と現状」

高橋悠介（慶應義塾大学）

2 「金春家文書の形成と流転」 宮本圭造

【講演】 「表千家不審菴に伝わる茶書について」

原田茂弘（表千家不審菴文庫）

【全体討議】 「司会」 横山太郎

●刊行物とデジタルアーカイブ公開

* 4月19日 「伊達家旧蔵デジタルアーカイブ」公開。

伊達家旧蔵能楽資料171点の画像を解題つきで公開。

（訂正）44号に昨年度末の「公開」としたが、「コンテンツ完成」の誤りで、実際の公開は今年度4月となった。お詫びして訂正する。

【所員の活動】

山中 玲子

「古作の能が教えてくれること―『鵜飼』を手がかりに―」

『国立能楽堂』430 19年6月

「『黒塚・船弁慶』他解説」

アーツカウンシル東京「庭園能」プログラム 19年10月

「『鷲』『三者の披き』 能楽タイムズ 813 19年12月

第12回古典文学学術賞選考講評「猪瀬千尋氏『中世王権の音楽と儀礼』」 国文研ニュース 56 20年1月

「研究展望（二〇一六年作品研究）」

『能楽研究』44号 20年3月

【講演・研究発表等】

基調講演「いくさと能」

Gettysburg Symposium
ピッツバーグ大学 19年9月

観世会能楽講座「賀茂」（観世清和氏・松岡心平氏と）

観世能楽堂 19年4月

【その他】

解説（砦）きの会

解説（黒塚）アーツカウンシル東京「庭園能」

鎌仙会能楽研修所 19年6月

解説（道成寺）梅村能の会

喜多能楽堂 19年10月

宮本 圭造

「『元祿忠臣蔵』の「歴史的真實」

『真山青果とは何者か？』文学通信 19年7月

「切支丹能は存在したか」

『古典文学の常識を疑う』勉誠出版 19年9月

劇評「東次郎家伝十二番」

『朝日新聞』 19年10月

「鎌倉・南北朝期のおん祭と猿楽」

『春日若宮おん祭』パンフレット 19年12月

「狂言面の課題」

『野村狂言座』公演パンフレット 20年1月

「唯子科協議会公演曲目解説」

19年6月・9月・12月・20年3月

【講演・研究発表等】

「金春家文書の再検討」

芸能史研究会例会 ハートピア京都 19年5月

「金春家文書の形成と流転」

能楽学会第18回大会 法政大学 19年10月

「所縁の能・狂言―エピソードから見る能・狂言の上演史―」

国立能楽堂公開講座 国立能楽堂講義室 19年10月

「春日大社の芸能文化」

講座「春日信仰のかたち」 奈良中部公民館 19年11月

伊海 孝充

「車屋謡本刊本考―鳥養道断が作った謡本―」

『能楽研究』44号 20年3月

「溝越天狗の役割―能《車僧》間狂言小考―」

『鉦仙』69号 20年11月

（共著）「鷲流狂言『宝暦名女川本』『盗類雑』『遠雑類』翻刻」

『能楽研究』44号 20年3月

「研究展望（二〇一六年作品研究）」

『能楽研究』44号 20年3月

令和元年薪御能パンフレット解説

20年5月

表 きよし

能「望月」演能史

『国立能楽堂』434号 19年10月

「研究展望（二〇一六年単行本）」

『能楽研究』44号 20年3月

「講演・研究発表等」

オフィスしみかん講座「金春禅竹を読む（五音三曲集①）」

鉦仙会能楽研修所 19年4月

第20回加藤眞悟明の会「当麻」解説

国立能楽堂 19年5月

国立能楽堂7月普及公演「融」解説

国立能楽堂 19年7月

オフィスしみかん講座「金春禅竹を読む（五音三曲集②）」

鉦仙会能楽研修所 19年6月

オフィスしみかん講座「金春禅竹を読む（五音三曲集③）」

鉦仙会能楽研修所 19年8月

オフィスしみかん講座「金春禅竹を読む（五音三曲集④）」

ふれあい貸し会議室八重洲 19年11月

第8回高林白牛口二の謡を聴く会 対談

喜多能楽堂 19年11月

世田谷シニアスクール「平家物語と古典芸能」

国士舘大学 19年12月

オフィスしみかん講座「金春禅竹を読む（五音三曲集⑤）」

鉦仙会能楽研修所 20年1月

豊島 正之

「キリシタン版辞書での同音異義と一語多義」

『論究日本近代語』勉誠出版 20年3月

「キリシタン版『日ポ辞書』のプロボジサン注記に就て」

相の荒神像と諸尊」

『上智大学国文学科紀要』 37 20年3月

『寺院文献資料学の新展開 第5巻 中四国諸寺院Ⅰ』

『キリシタン版冒頭部の印刷順序』 上智大学国文学論集』 20年1月

臨川書店 20年3月

『キリシタン文献の典拠問題』 『国語と国文学』 96巻5号 19年5月

『諸社口決』と密教の社参作法の展開』 『中世に架ける橋』 森話社 20年3月

『研究展望(二〇一六年国語学的研究)』 『能楽研究』 44号 20年3月

『研究展望(二〇一六年能楽論研究)』 『能楽研究』 44号 20年3月

『招待講演』 Innovations in book production in the Early Jesuit Mission in Japan・International symposium: Historical legacies of Christianity in east Asia, Sophia University 19年10月

(共著)『センチュリー文化財団寄託品展覧会「本の虫本の鬼」*「赤木文庫蔵書目録」』以下、六名の解説執筆。 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・同アート・センター 19年6月

『玉伝深秘巻』の宗教的基盤—付、室町後期神祇書における受容』 『仏教文学』 44 19年4月

『講演・研究発表等』 説話文学会三〇一九年度大会シンポジウム「律をめぐる宗教的環境と説話文学との架橋」 名古屋大学 19年6月

高橋 悠介

『伝憲深撰『醍醐三宝院大事』をめぐる問題』 『寺院文献資料学の新展開 第1巻 覚城院資料の調査と研究Ⅰ』 臨川書店 19年10月

講演会「愛染明王の信仰と造形」 根津美術館 19年8月

『享保期の江戸城西丸への謡本献上と謡曲改訂(一)』 『斯道文庫論集』 54 20年2月

『身体論の中世的展開と五蔵説』 東アジア日本研究者協議会第4回国際学術大会・パネル「中世密教の宗教テクストの展開—覚鑑を中心に—」 台湾大学 19年11月

『金春禅竹と自然表象』 アジア遊学246『和漢のコードと自然表象—十六、七世紀の日本を中心に—』 勉誠出版 20年3月

『正楽寺蔵・荒神曼荼羅について—蔵王権現と習合した忿怒』

『正楽寺蔵・荒神曼荼羅について—蔵王権現と習合した忿怒』

『解説文』

林定期能百周年記念冊子 *屋島・砧・殺生石の解説執筆。

林定期能楽会 20年1月

横山 太郎

「現代思想」と能—1970～80年代を中心に—

松岡心平編『中世に架ける橋』森話社 20年3月

「わざの記憶と型」

鞍田崇、横山太郎、大山載吉『公開講演会「記憶をめぐって—カタの記憶／モノの記憶—」

立教大学心理芸術人文学研究所 20年3月

「能界展望(二〇一七年)」

『能楽研究』44号 20年3月

「講演・研究発表等」

「橋の会」前夜—能と現代芸術・現代思想—

能楽学会4月例会 法政大学 19年4月

「古典芸能レクチャー能・狂言編」

演劇ラボラトリー木ノ下歌舞伎プロジェクト公開講座 AI

HALL(伊丹市演劇ホール) 19年5月26日／6月16日

「能の身体・狂言の身体」

あぜくらのタベ(講座) 国立能楽堂 19年7月

トークセッション「お稽古の現在」企画／司会

能楽学会第18回大会 法政大学 19年10月

「カタの記憶—わざの伝承をめぐって」公開講演会

シンポジウム『記憶をめぐってカタの記憶／モノの記憶』

立教大学 19年11月

「その他」

ルームシアター京都『Assembly』4号

特集「古典のダイナミズム」企画監修

19年10月

中司 由起子

「狂言(隠笠)と(宝の槌)の趣向」

『能楽研究』44号 20年3月

書評「小林健二著『描かれた能楽—芸能と絵画が織りなす文化史—」

「研究展望(二〇一六年狂言研究)」

『能楽研究』44号 20年3月

「講演・研究発表等」

公開講座永島忠修・充「能の会」[能檜垣を探る]

国立能楽堂 19年9月

古典芸能講座 西川口公民館

19年11月

「解説等」

「観世九皇会別会」パンフレット

19年4月

「としま能の会」パンフレット

19年7月

「和魂VI」パンフレット

19年7月

「鎌倉薪能」パンフレット

19年10月

「国立能楽堂公演番組」『国立能楽堂』

19年4月／20年3月

「金春会」番組解説

19年4月／20年3月

副音声解説 狂言(居杭)能(烏帽子折)NHK

20年2月

多言語字幕システム監修 檜書店

19年4月／20年3月

深澤 希望

「明窓淨机―学界通信―」『金春月報』19年5・8・11月
 「研究展望(二〇一六)年資料研究・資料紹介」

「能楽研究」44号 20年3月
 (共著)「葛巻昌興日記」所引能楽記事稿(貞享三年五月〜十二月分)
 『演劇研究』第42号 19年3月

「その他」

外国人のための能楽鑑賞教室パンフレット

狂言(棒縛)・能(葵上) 国立能楽堂 19年5月

8月企画公演《夏休み親子で楽しむ能・狂言の会》リーフレット
 国立能楽堂 19年8月

小室 有利子

「研究展望(二〇一六)年能楽史研究」

『能楽研究』44号 20年3月

「蔵書の出品・掲載」

①小田幸子氏「能楽講座 小道具4」(『月刊国立能楽堂五月号』国立能楽堂五月公演プログラム、二〇一九年五月)に
 「二曲三体人形図」「老体図」の図版掲載を許可した。

②高橋葉子氏「明治の音源に聞く謡のフシ―大西新三郎(小督)駒之段」(『日本伝統音楽研究』第16号、二〇一九年六月)に「明和改正謡本」内組「羽衣」の画像掲載を許可した。

③アイケ・グロスマン氏論文「Sprache・Körper・Emotionen, Der Schauspieler und sein Publikum bei Zeami」

(『Transformationen: Dimensionen des Körpers im vormodernen Japan』二〇一九年)に「二曲三体人形図」

「老体図」「女体図」「軍体図」「砕動風図」「力動風図」計5点の図版掲載を許可した。

④NHK「歴史秘話ヒストリア」#367「そして能は生まれた世阿弥・時代を超える戦略」に「寺子屋小謡図版画」(能楽研究所蔵)の画像使用を許可した(二〇一九年十一月二十日放送)。

⑤辻積一郎氏「研究ノート」能楽師を運営主体とする近代能楽専用施設における観覧領域の形成過程」(『建築史学』第73号、二〇一九年九月刊行)に「京都能楽堂之圖」の画像掲載を許可した。

⑥京都造形芸術大学通信教育部「芸術学科 和の伝統文化コース」テキスト、オンデマンド書籍…はじめて学ぶ芸術の教科書シリーズ『伝統文化論』(井上治氏監修、京都造形芸術大学 東北芸術工科大学出版局 藝術学舎、二〇二〇年四月)ならびに電子書籍『伝統文化論』に、「寺子屋小謡図版画」の画像借用・掲載を許可した。

⑦NHK「10min.ボックス国語／古文・漢文「狂言」」HPでの動画配信に「天正狂言本」の画像使用を許可した(期間…二〇一九年四月中旬〜二〇二〇年三月末日)。

⑧令和元年度国立能楽堂特別展「神戸女子大学古典芸能研究

センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクショ

ン」(会期…令和元年十一月六日～令和二年一月十七日)でのパネル展示の参考図版、ならびに図録所収の小林健二氏「神戸女子大学古典芸能研究センター蔵・神戸女子大学図書館蔵の能狂言の絵巻と図帖」に、『能楽図絵』『金札』『道成寺』『田村』『老松』計4点の使用を許可した。

⑨宮川菜々子氏「雲錦手の研究―幹・葉・花の図像典拠に関する考察―」(『あいちの考古学2019』資料集、二〇一九年十二月刊行)に『光悦謡本』『紅葉狩』の画像掲載を許可した。

⑩伊藤正義著『中世文華論集 第六卷 中世文華とその資料(下)』(二〇二〇年一月刊行予定)に『版本番外謡曲集』五百番本、田方屋版ならびに林版奥書の画像掲載を許可した。

⑪天野文雄氏「世阿弥再見―「改作」にみる世阿弥の功業」(『舞台芸術』23号(二〇二〇年三月)に『二曲三休人形図』女舞の画像掲載を許可した。

⑫英語版『二条城公式ガイドブック』に『寛永三年九月二条城行幸 御能組』の画像掲載を許可した。

⑬法政大学憲章を学ぶための付属校生むけ教材開発プロジェクト編『学びのつながり』(二〇二〇年三月刊行)に新作能『草枕』の舞台写真掲載を許可した。

⑭『知りたい!日本の伝統音楽①調べよう!日本の伝統音楽の歴史』(ミネルヴァ書房、二〇二〇年)に『寺子屋小謡図

版画』の画像掲載を許可した。

⑮小野桂子氏作成の日本国外学生向け教材に『二曲三休人形図』序文・女休・老休・軍休の画像掲載を許可した。

⑯鈴木えみこ氏「光悦書・宗達下絵の「鶴下絵三十六歌仙和歌巻」について」(『パラゴネ』7号、二〇二〇年三月)に光悦謡本(上製本)「盛久」の画像掲載を許可した。

⑰小田幸子氏「能楽講座 小道具15」(『月刊国立能楽堂四月号』国立能楽堂令和二年四月公演プログラム、二〇二〇年四月)に『二曲三休人形図』『軍体図』の画像掲載を許可した。

⑱HOSEIミュージアムWebサイトフロアマップに「宮増弥左衛門親賢画像」の資料掲載を許可した。

⑲HOSEIミュージアムに夏目漱石デスマスク・野上豊一郎銀時計の資料借用を許可した。

【雑報】

◇小室有利子氏が兼任所員に就任

小室有利子氏が二〇一九年四月一日付で兼任所員に就任した。

◇客員研究員の委嘱

共同利用・共同研究拠点(能楽の国際・学際的研究拠点)公募型共同研究課題採択者および研究分担者に対して、規程に基づき客員研究員を委嘱した。

重田 みち(京都造形芸術大学〔現・京都芸術大学〕非常

勤講師)

井上 治(京都造形芸術大学〔現・京都芸術大学〕准教授)
 高橋 葉子(京都市立芸術大学客員研究員)
 大東 敬明(國學院大學准教授)
 西谷 功(宗教法人泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員)
 芳澤 元(明星大学助教)
 永井 猛(米子工業高等専門学校名誉教授)
 稲田 秀雄(山口県立大学教授)
 藤田 隆則(京都市立芸術大学教授)
 河村 晴久(シテ方観世流・同志社大学嘱託講師)
 永原 順子(大阪大学専任講師)
 中嶋 謙昌(灘高等学校教諭)
 玉村 恭(上越教育大学准教授)
 有松 遼一(ワキ方高安流・同志社女子大学非常勤講師)
 川上 一(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫研究嘱託)
 浅井 美峰(明星大学非常勤講師)
 中野 顕正(都留文科大学非常勤講師)
 古賀 広志(関西大学教授)
 西尾久美子(京都女子大学教授)
 柳原佐智子(富山大学教授)
 岸本 恵実(大阪大学准教授)
 白井 純(広島大学准教授)
 竹村明日香(お茶の水女子大学准教授)
 高山 知明(金沢大学教授)

中野 遙(上智大学大学院博士後期課程)

中川 志信(大阪芸術大学教授)

蔡 東生(筑波大学准教授)

董 然(筑波大学大学院博士後期課程)

岩崎 雅彦(國學院大學非常勤講師)

小田 幸子(日本大学非常勤講師)

大日方寛(ワキ方下掛り宝生流能楽師)

西村 聡(金沢大学教授)

日置 貴之(白百合女子大学准教授)

田草川みずき(千葉大学准教授)

森田 都紀(京都造形芸術大学〔現・京都芸術大学〕准教授)

高桑いづみ(東京文化財研究所特任研究員)

以上、任期二〇一九年六月二十五日～二〇二〇年三月三十一日。

◇外国人客員研究員の受入

外国人客員研究員としてアイケ・グロスマン氏(ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所日本学科准教授)を受け入れた(受入期間…二〇一九年四月一日～二〇二〇年三月八日)。氏の研究課題は「能における身体、空間および感情の、歴史的・学際的研究」。

同じくボナヴェントゥーラ・ルペルティ(ヴェネツィアカ・フォスカリ大学アジア・地中海アフリカ研究学科日本学研究所 日本語 日本文学教授)を受け入れた(受入期間…

二〇一九年七月十五日～八月十九日)。氏の研究課題は「Quotations from Noh Theatre in pre-modern literature (haikai poetry) and theatre (Chikamatsu Monzaemon's joruri)」。

◇研究補助員(共同利用・共同研究拠点関係)の退職

深澤希望氏が二〇一九年三月三十一日付でリサーチ・アシスタントを退職した。

◇研究補助員(共同利用・共同研究拠点関係)の採用

二〇一九年四月一日付で共同利用・共同研究拠点の研究活動の遂行にあたるための研究補助者として能楽研究所兼任所員の中司由起子氏を、またリサーチ・アシスタントとして人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程在籍の富山隆広氏を採用した。

◇専任職員の異動

西條勝江氏が二〇一九年十一月一日付で小金井事務部学務課へ異動となったことに伴い、同日付で加藤愛氏(通信教育部事務部通信教育課)が能楽研究所事務担当となった。

◇事務嘱託職員(共同利用・共同研究拠点関係)の退職

村上みさお氏が退職した。

◇事務嘱託職員(共同利用・共同研究拠点関係)の採用

二〇一九年十月一日付で共同利用・共同研究拠点担当の事務嘱託として、菅沼寿恵氏を採用した。

◇臨時職員の採用

二〇一八年度に引き続き、二〇一九年四月一日付で力丸彩

子氏を採用した。

◇臨時職員の退職

力丸彩子氏が二〇一九年十月三十一日付で退職した。

◇臨時職員の採用

二〇一九年十一月一日付で深澤希望氏を採用した。

◇臨時職員(夜間閲覧業務)の退職

深澤希望氏が二〇一八年三月三十一日付で退職した。

◇臨時職員(夜間閲覧業務)の採用

二〇一九年四月一日付で富山隆広氏を採用した。

「二〇一九年度の所員名と関連委員名」

◎所員

所長・専任所員	教授	山中	玲子
専任所員	教授	宮本	圭造
任期付専任所員		古俣	達郎
兼任所員	文学部教授	伊海	孝充
兼任所員	文学部准教授	林	容市
兼任所員	国際文化学部教授	鈴木	靖
兼任所員	国際文化学部教授	竹内	晶子
兼任所員	デザイン工学部教授	高村	雅彦
兼任所員	情報科学部教授	伊藤	克亘
兼任所員	国士館大学教授	表	きよし
兼任所員	慶應義塾大学斯道文庫准教授	高橋	悠介
兼任所員	上智大学教授	豊島	正之

兼任所員 明治学院大学教授

兼任所員 立教大学教授

兼任所員

兼任所員

兼任所員

兼任所員

兼任所員

兼任所員

兼任所員

兼任所員

兼任所員

◎運営委員

議長 所長

委員 専任所員

委員 文学部教授

委員 人間環境学部教授

委員 デザイン工学部教授

委員 兼任所員

委員 兼任所員

委員 兼任所員

委員 兼任所員

マイケル・ワトソン

横山 太郎

中司由起子

深澤 希望

小室有利子

西條 勝江

加藤 愛

村上みさお

菅沼 寿恵

力丸 彩子

深澤 希望

山中 玲子

宮本 圭造

阿部 真弓

根崎 光男

岩月 正見

伊海 孝充

鈴木 靖

竹内 晶子

高村 雅彦

◎法政大学能楽振興基金委員

委員長 学術支援本部担当常務理事

委員 法人本部担当常務理事

委員 写真家

委員 法政大学名誉教授

委員 能楽研究者

委員 能楽研究所所長

委員 能楽研究所専任所員

◎法政大学能楽賞委員

委員長 学術支援本部担当常務理事

委員 法人本部担当常務理事

委員 能楽研究所所長

委員 能楽研究所専任所員

◎法政大学能楽賞選考委員

委員長 学術支援本部担当常務理事

委員 法人本部担当常務理事

委員 早稲田大学教授

委員 早稲田大学名誉教授

委員 法政大学名誉教授

委員 観世流シテ方能楽師

委員 能楽研究所所長

委員 能楽研究所専任所員

尾川 浩一

増田 正人

服部 冬樹

西野 春雄

羽田 昶

山中 玲子

宮本 圭造

尾川 浩一

増田 正人

山中 玲子

宮本 圭造

尾川 浩一

増田 正人

児玉 竜一

竹本 幹夫

西野 春雄

観世鏡之丞

山中 玲子

宮本 圭造

◎共同利用・共同研究拠点運営委員

委員	学術支援本部担当常務理事	尾川 浩一
委員	能楽研究所所長	山中 玲子
委員	能楽研究所専任所員	宮本 圭造
委員	文学部教授	ステーヴィン・ネルソン
委員	経営学部教授	坂上 学
委員	国立研究開発法人理化学研究所チームリーダー	入来 篤史
委員	成城大学教授	大谷 節子
委員	観世流シテ方能楽師	観世 喜正
委員	元ユネスコ日本政府代表部大使	佐藤 禎一
委員	早稲田大学名誉教授	竹本 幹夫
委員	明治学院大学教授	マイケル・ワトソン

◎共同利用・共同研究拠点公募型共同研究課題専門委員

委員	能楽研究所所長	山中 玲子
委員	能楽研究所専任所員	宮本 圭造
委員	国際文化学部教授	竹内 晶子
委員	山口県立大学教授	稲田 秀雄
委員	観世流シテ方能楽師	観世 喜正
委員	国文学研究資料館名誉教授	小林 健二
委員	東京文化財研究所特任研究員	高桑 いづみ
委員	金沢大学教授	西村 聡

〔受 贈 図 書〕

☆単行本〔受入順。*印は寄贈者。書名・著者・発行年・発行者の順。著者および編者が発行している場合は、発行者は省略。〕

『対訳でたのしむ 清経(改訂版)』

竹本幹夫著 19年 *檜書店

『復元 江戸城能舞台と弘化勸進能』

*法政大学江戸東京研究センター編 19年

『THEATRE YEAR-BOOK 2019 Theatre Abroad 世界の舞台芸術を知る』

*国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター編 19年

『紛争地域から生まれた演劇 その10 演劇と世界―日本と世界の出会いをめぐる』

*国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター編 19年

『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅸ』

東洋文庫日本研究班編 19年 *東洋文庫

『Kurokawa no: shaping the image and perception of Japan's folk traditions, performing arts and rural tourism』

*Eike Grossmann著 13年 Global Oriental

『幕末期狂言台本の総合的研究…和泉流台本』

*小林千草著 19年 清文堂

『柳川古文書館史料目録第28集 由布(昭二)家』

* 柳川古文書館編 19年

『Corps et message: de la structure de la traduction et de l'adaptation』 Giroux, Sakae Murakami, Sandra Schaal著

19年 Editions Philippe Picquier * 宮本圭造

『大辞林 第四版』

松村明編 19年 * 三省堂

『能・狂言における伝承のすがた』

* 東海能楽研究会編 19年 風媒社

『対訳でたのしむ 葛城』

竹本幹夫著 19年 * 檜書店

『柳川文化資料集成 第六集 紀行と実録』

柳川市史編集委員会編 19年 * 柳川市

『令和元年国立能楽堂特別展 神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション』

国立能楽堂事業推進課調査資料係編 19年
独立行政法人日本芸術振興会 * 国立能楽堂

『japonska drama no』

* IWAN R. V. RUMANEK著 10年

VEDA, Vydavatelstvo SAV, Bratislava

『Transformationen: Dimensionen des Körpers im vormodernen Japan』 * Eike Grossmann編 19年 OAG Hamburg

『知りたい！日本の伝統音楽：①調べよう！日本の伝統音楽の歴史』京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター監修

19年 * ミネルヴァ書房

『能面手鑑』橘之巻・梅之巻

梅若万紀夫監修 97年 玉川大学出版部 * 小熊正

『能のおもて』中西通著 99年 玉川大学出版部 * 小熊正

『対訳で楽しむ 養老』

三宅晶子著 05年 * 檜書店

『対訳で楽しむ 隅田川』

三宅晶子著 12年 * 檜書店

☆雑誌・紀要など（特記した以外は発行所からの寄贈誌名・

号数・発行年・発行所の順）

〈雑誌など〉

葵 徳川美術館だより No.111～113（19・20年） 徳川美術館

アンデスの布―糸があやなすチャンカイ・レース―（19年）

岩瀬文庫だより No.61～64（19年） 関西学院大学博物館

江戸水没 書物をひらく21（19年） 西尾市岩瀬文庫

おもて 141～143号（19・20年） 国文学研究資料館

関西学院の130年 1889―2019（19年） 大槻能楽堂

関西学院大学博物館

観世 86巻5号～87巻4号（19・20年） 檜書店

観世九皇会定例会 5月～4月（19・20年） 観世九皇会

喜多流自主公演能 5月～4月（19・20年） 喜多流職分会

喜多流青年能 第46回（19年） 喜多流職分会

橘香 64巻1～12号（19年） 梅若研能会

汲古 75号（19年） 汲古書院

九皇 復刊44号（19年） 観世九皇会

京都新能 第70回（19年） 京都能楽会

藝能 25号（19年） 藝能学会

KENSYO vol.113～115（19・20年）セクターエイティエイト

源氏物語といけばな 書物をひらく20(19年)

国文学研究資料館

国際日本文学研究集会会議録 第42回(19年)

国文学研究資料館

国文学研究資料館報 2019(19年)

国文学研究資料館

国文学研究資料館紀要 46号(20年)

国文学研究資料館

国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇 16号(20年)

国文学研究資料館

国立能楽堂 428～439号(19・20年)

日本芸術文化振興会

國華一四八八号

國華社 *門脇幸恵

五島美術館研究紀要 7号(19年)

五島美術館

秦氏を学ぶ 創刊号(19年)

秦氏を学ぶ会

金春月報 40巻4号～41巻3号(19・20年)

金春月報編集部

サントリー美術館ニュース 276～278号(19年)

サントリー美術館

紫明 43・44号(19年)

紫明の会

序破急 22号(19年)

大阪能楽養成会後援会

地方史情報 138～139(19年)

岩田書院

中世文学 64号

中世文学会 *三宅晶子

調査研究報告 39号(19年)

国文学研究資料館

鏡仙 691～701号(19・20年)

鏡仙会

東海能楽研究会年報 23号(19年)

東海能楽研究会

東京文化財研究所概要 2019(19年)

東京文化財研究所

東西合同研究発表会 50回(19年)

京都能楽養成会・大阪能楽養成会

徳川記念財団会報 vol.33・34(19・20年)

徳川記念財団

ないじえる芸術共創ラボ「いま、古典籍の森で」(19年)

国文学研究資料館

名古屋芸能文化 29号(20年)

名古屋芸能文化会

日本研究 59集(19年)

国際日本文化研究センター

日本文学研究ジャーナル 11号(19年)

古典ライブラリー

能 732～743号(19・20年)

京都観世会

能楽タイムズ 806～815号(19・20年)

能楽書林

能楽 宝生(19年)

宝生会

能楽連盟報 108・109号(19・20年)

新潟県能楽連盟

橋がかり 4月～3月(19・20年)

横浜能楽堂

ふみ 12・13号(19・20年)

国文学研究資料館

宝生 58～63号(19・20年)

宝生会

宝生LIFE 秋・冬・春号(19・20年)

宝生会

法政大学大原社会問題研究所創立百周年記念展示(19年)

法政大学大原社会問題研究所

柳川古文書館史料目録 28集(19年)

柳川古文書館

柳川古文書館年報 平成30年度(19年)

柳川古文書館

大和座通信 127号(20年)

大和座狂言事務所

立教デイスブレイ 立教学院展示館年報 vol.4(19年)

立教学院展示館

歴史書通信 243～248号(19・20年)

歴史書懇話会

歴史と文学の講座2018 『古代・中世日本の歴史と文学』

歴史書懇話会

— 渡来人の源流を探る — (19年)

赤穂市立図書館

〈大学紀要〉

愛知淑徳大学国語国文 43号(20年)

愛知淑徳大学国語国文学会

青山語文 49号(19年)

青山学院大学日本文学会

語文 112・113輯(19年)

大阪大学国語国文学会

演劇学論叢 19号(20年)

大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室

上方文化研究センター研究年報 19号(19年)

大阪府立大学上方文化研究センター

言語文化学研究 日本語日本文学編 14号(19年)

大阪府立大学人間社会学部言語文化学科

文藝論叢 90・91・92号(18・19年)

大谷大学文芸学会

岡大文論稿 47号(19年)

岡山大学言語国語国文学会

国語国文学会誌 63号(20年)

学習院大学国語国文学会

国語国文 44号(19年)

金沢大学国語国文学会

国文学 103号(19年)

関西大学国文学会

斯道文庫論集 54輯(20年)

慶應義塾大学付属研究所斯道文庫

古典芸能研究センター紀要 13号(19年)

神戸女子大学古典芸能研究センター

日本文学論究 79冊(20年)

國學院大學国文学会

実践国文学 96・97号(19・20年)

実践国文学会

人文学報 515・11号(19年)

首都大学東京人文学研究科

国文学科紀要 37号(20年)

上智大学国文学科

国文学論集 53号(20年)

上智大学国文学会

学苑 951号(20年)

昭和女子大学

成蹊國文 52号(19年)

成蹊大学文学部日本文学科

中央大学国文 63号(19年)

中央大学国文学会

山邊道 59・60号(19・20年)

天理大学国語国文学会

湘南文学 54号(19年)

東海大学日本文学会

同志社國文学 91号(19年)

同志社大学国文学会

佛教文化研究所紀要 38号(19年)

同朋大学佛教文化研究所

文学論藻 94号(20年)

東洋大学文学部日本文学文化学科

比較文化研究所年報 35号(19年)

徳島文理大学比較文化研究所年報編集委員会

文学論叢 36号(19年)

徳島文理大学文学論叢編集委員会

二松 33集(19年)

二松学舎大学大学院文学研究科

東アジア学術総合研究所集刊 49集(19年)

二松学舎大学東アジア学術総合研究所

二松学舎大学論集 62号(19年)

二松学舎大学文学部

国文目白 59号(20年)

日本女子大学国語国文学会

演劇創造 Vol.48(19年)

日本大学芸術学部演劇学科

Performing Arts Studies / 舞台芸術研究 24号(19年)

日本大学大学院芸術学研究科舞台芸術専攻

文教大学国文 48号(19年)

文教大学国文学会

国語国文学 58・59・60号(16・17・18年)

別府大学

沖繩文化研究 46号(19年) 法政大学沖繩文化研究所

国際日本学(研究成果報告集) 16・17号(19・20年)

法政大学 国際日本学研究所

法政大学史資料集 38号(20年) 法政大学史委員会

法政史学 92・93号(19・20年) 法政大学史学会

大学院紀要 83・84号(19・20年) 法政大学大学院

文学部紀要 78・79号(19・20年) 法政大学文学部

国語国文研究 153・154号(19・20年) 北海道大学国語国文学会

日本文学ノート 54号(19年) 宮城学院女子大学日本文学会

能楽資料センター紀要 No.38(19年)

武蔵野大学能楽資料センター

横浜国大 国語研究 37号(19年)

横浜国立大学 国語・日本語教育学会

日本文学 122・123号(19・20年) 立教大学日本文学会

アート・リサーチ Vol.20(20年)

立命館大学アート・リサーチセンター

國文學論叢 65輯(20年) 龍谷大學國文學會

演劇映像 60号(19年) 早稲田大学演劇映像学会

国文学研究 187・188・189号(19年) 早稲田大学国文学会